

1 ○ 牛アデノウイルス 2 型が関与した呼吸器・消化器病の集団発生及び浸潤状況調査

2

3

中丹家畜保健衛生所

4

○久保田直樹 吉良卓宏

5

【はじめに】牛アデノウイルス (BAdV) は、牛に発熱、発咳、肺炎等の呼吸器症状や、

6

腸炎等の消化器症状を引き起こすといわれている。今回、府内の一酪農場において発生し

7

た BAdV2 型の関与を疑う呼吸器・消化器病の概要と、周辺地域における本ウイルスの浸潤

8

状況調査について、併せて報告する。【材料と方法】①発生農場において採取した鼻腔スワ

9

ブ、糞便、ペア血清 (各 7 頭分) について、遺伝子検査、ウイルス分離検査、抗体検査を

10

実施した。②浸潤状況調査として過去 3 年間に周辺地域 14 戸で採取した乳用牛の血清 599

11

検体について分離ウイルスを用いた抗体検査を実施した。【結果】①糞便 3 検体から BAdV

12

特異的遺伝子を検出し、ウイルスも分離した。分離ウイルスはシーケンス解析により BAdV2

13

型に分類された。また、抗体検査により 6 頭のペア血清において分離ウイルスに対しての

14

み有意な抗体価上昇を認めた。②浸潤状況調査では 14 戸 516 検体において BAdV2 型に対す

15

る抗体 (抗体価 2~256 倍以上) を検出した。【考察】今回の症例は BAdV2 型の呼吸器・消

16

化器症状への関与が疑われた非常に貴重な症例である。また、周辺地域においても BAdV2

17

型が広く浸潤している実態が明らかとなった。発生農場では発生直前に牛の導入があった

18

ことから、導入牛の隔離・観察の重要性を再認識するとともに、BAdV の病原性等について

19

今後も注意していく必要があると思われた。